藤沢市民ギャラリー
美術作品の発表と鑑賞の場を提供
満足度の向上と効率的な運営に努める

井上　裕介（市民クラブ藤沢）

質問 伝統文化、芸術、アート等をもっと広め、市民の目に触れる機会を提供すべきと考える。その中で、藤沢市民ギャラリーは、民間ビルを賃借した施設だが、その費用について聞きたい。

答弁 藤沢市民ギャラリーは、市民に美術作品の発表と鑑賞の場を提供することにより、市民文化の向上に寄与することを目的とした施設として、多くの方に利用いただいている。この施設は利便性が高い反面、賃借料が高額となっており、年間での運営費用は約８２００万円であるが、利用者満足度、利用率は高い施設である。

質問 費用が高額になるとのことで、より多くの方が利用できるよう今後のあり方について議論が必要と考えるが、見解を聞きたい。

答弁 今後も利用者や来館される方の満足度の向上に取り組むとともに、効率的な運営を行うように努めていきたい。また、第２次藤沢市公共施設再整備プランの中で、市民ギャラリーが市民会館の周辺施設として機能集約や複合化を図る候補となっていることから、今後検討を重ねていく。

利用者満足度の高い藤沢市民ギャラリー

スケートリンク市有地に整備を

清水　竜太郎（民主クラブ）

質問 アイススケートは人気が高く、健康増進にもつながるが、スケートリンクが不足している。昨今は、地方自治体が土地を貸し、民間企業が建設、運営する動きが活発である。この方法は財政負担もないため、本市も市有地を活用した整備を検討するべきと考えるが、見解を聞きたい。

答弁 本市では、アイススケートなどいわゆるウインタースポーツについては、明確な取り組みの位置づけや具体的な方策は定めていない現状がある。また、アイススケートリンクは維持管理や運営経費の問題、費用対効果、用地の確保など課題も多いことから、整備については非常に困難であると考えている。

一方、ウインタースポーツも平昌冬季オリンピック・パラリンピックの開催が迫り、関心の高まりを見せているところであり、そうした気運の盛り上がりを契機に、現在行っている八ヶ岳野外体験教室を活用した中学校のスキー教室や、冬季スポーツにおける藤沢市ゆかりの選手の応援などにより、多くの方にウインタースポーツへの関心や興味を持ってもらえるよう努めていきたい。

ノーマライゼーションの実現を目指す
障がい者のスポーツ活動
スポーツ全般の推進に努める

味村　耕太郎（日本共産党藤沢市議会議員団）

質問 障がい者スポーツ活動の充実は、スポーツ行政の中でも立ちおくれた分野である。オリンピック・パラリンピックの取り組みを一過性のものとせず、とりわけパラスポーツ団体との連携、強化を図るなどして、本市全体のスポーツ施策の充実につなげるべきと考えるが、見解を聞きたい。

答弁 東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、障がい者のスポーツ活動を充実させることは、共生社会の実現という観点からも大変重要なことと捉えている。障がい者スポーツを推進するためには、障がい者団体を初め、スポーツ関係団体、スポーツ推進委員協議会、総合型地域スポーツクラブ、民間企業など、障がい者スポーツの推進に関係する団体が一体となり取り組むことが必要である。現在、このような取り組みをきっかけに、障がい者スポーツの団体相互の連携を図る組合の発足に向け調整を進めており、本市のスポーツ推進基本計画に掲げるスポーツのノーマライゼーションの実現を目指すとともに、本市スポーツ全般の推進に努めていく。

合流式下水道の改善
放流管整備を進める

吉田　淳基（ふじさわ湘風会）

質問 本市の下水道整備について、湘南ふじさわ下水道ビジョンの第２期アクションプログラムでは、合流式下水道の改善や施設の老朽化対策、地震対策を精力的に進めることが読み取れる一方で、浸水対策への投資割合が低いと考えるが、見解を聞きたい。

答弁 第２期アクションプログラムにおいて海、川のさらなる水質改善として位置づけている合流式下水道の改善事業は、汚濁負荷の削減と合わせて、市域南部を主体とした広域的な浸水被害の軽減にも寄与することから、重点的に投資し、雨に強いまちづくりとして浸水対策関連の事業とともに取り組む。現在、具体的な改善対策の一つとして辻堂南部放流管の整備を計画している。この施設は、辻堂駅南口から湘南海岸までの広範囲な辻堂南部排水区において、大雨の際に、一定量以上の雨水を辻堂浄化センターに流入させず、海域に放流することで、同センターの下水処理をより効率的にするものである。来年度には、占用位置となる海岸や国道などの各施設管理者との協議内容を踏まえた工事内容について、周辺住民に説明した上で速やかに工事着手し、平成35年度の完成を目指していく。

放流管のイメージ（写真は既設の辻堂浄化センター放流渠）

保育所の入所選考基準点等の公表を

西　智（市民クラブ藤沢）

質問 保育所の４月入所における各施設に入所できた最低の基準点、優先順位、調整項目を公表することは、選考過程の透明化が図られ、また、これから入所申し込みをする方の目安にもなり、保育所を探す保護者の負担軽減のためにも必要だと考える。以前質問した際は、他市の状況を踏まえ今後研究していく、事業者側の理解を得ることも必要なことから実施時期を含めて検討するとの答弁であったが、その後の研究、検討の結果を聞きたい。

答弁 保育所の４月入所内定の最低点数、優先順位、調整項目を公表することについては、申し込みをしている保護者にとって判断基準の一つとなるとともに、選考の透明性を高めることにつながるものであると考えている。このことから、保育所の４月一次入所内定の最低点数等をホームページ上で公表していきたいと考えている。公表時期については、平成30年４月一次入所の結果通知を30年２月上旬に発送する予定であることから、通知発送後の時期で調整しており、公表に際して、個人情報が特定されないか等、慎重に検討している。

がん教育の実施
外部講師等を活用

平川　和美（藤沢市公明党）

質問 小中学校においてがんの知識や予防を学ぶことで、がん検診の大切さを知り、生活習慣病に気をつけるきっかけとなると考える。外部講師の活用など、がん教育の現状と今後の進め方について聞きたい。

答弁 学校における教育活動は学習指導要領にのっとって進めており、小学校６年生、中学校３年生の保健学習における病気の予防という学習領域の中で、がんについて扱っている。また、本年度より神奈川県教育委員会が主催している外部講師を活用したがん教育の授業実践に羽鳥中学校が取り組んでおり、藤沢市民病院の医師を講師に招いて学年全体に対して授業を行っている。さらに、県教育委員会の指定研修となっているがん教育指導者研修講座を市立中学校の教諭が受講して、教科指導との関連やがん教育の実践例について学び、次期学習指導要領改訂後に予定されているがん教育の本格実施に向けて準備を進めている。

今後は、学校において次期学習指導要領が全面実施となる平成33年度までに、現行の学習内容をがんの要因や予防に関する学習内容へと移行させていくとともに、より学習を深めるために外部講師を活用した授業実践等を進めていく。

教育機会の不平等
各学校で見直し可能

酒井　信孝（市民派クラブ）

質問 本市の公立中学校では、大清水中学校のみが普段の着用義務がない提示服を定め、「ＴＰＯに応じたふさわしい服装の判断を教育している」とのことだが、他校は常時標準服を着用させている。学区制により所属校が決められてしまう公立中学校で教育内容に違いがあるのは、公教育の平等性において問題ではないか。

答弁 標準服は地域の特性や学校の伝統、生徒及び保護者の要望等、各学校の実情を踏まえて、学校の裁量において各校の独自性の範囲内で決定しており問題はないと捉えている。また、見直しの必要や要望が生じた場合には、校内に服装検討委員会等を設置し、生徒や保護者、教職員等の意見を踏まえ、機能性や経済性等のさまざまな視点から検討して決定している。

質問 詰襟の標準型学生服はインターネットで１万５千円程度で販売されているが、本市の取扱業者ではいくらか。また、インターネットで購入可能な標準学生服やデザインが似たブレザーの利用は可能なのか。

答弁 本市取扱業者の販売価格は、上下税込み価格で３万５千円から４万円と把握している。また、インターネットでの購入は、デザインが似ている場合は利用が可能である。

藤沢駅周辺の再整備
商店街等と連携を

土屋　俊則（日本共産党藤沢市議会議員団）

質問 藤沢駅周辺地区の大がかりなリニューアル事業は、まちづくりや商店街の活性化、にぎわいに結びつけていく必要があると考える。駅周辺の商店や商店街とどう連携して進めていくのか市の考えを聞きたい。

答弁 藤沢駅周辺地区の再整備については、市、民間事業者が一体的に駅周辺の機能更新を進めることで、活力の再生、維持とさらなるにぎわいの創出が見込めると考えている。駅周辺全体の再活性化に向け、駅から駅前、駅前から商店街へと人の流れが生まれ、まち全体のにぎわいにつながることを意識して事業を推進しており、さらに、この事業と連携して周辺商店街が一体的に取り組むことにより、事業効果が高められるものと考えている。

現在、駅周辺の再整備後のにぎわいの創出や魅力づくりのため、商店会連合会や商工会議所など、経済団体と連携した中で、鉄道事業者や大型店、地域商店街とも意見交換を行い、官民が連携したエリアマネジメントの導入も見据え、検討を進めている。こうした仕組みづくりや各商店街の取り組みを生かした中で、駅周辺商店街への回遊性や利便性を高め、活気ある藤沢の玄関口としての再生に向け取り組んでいきたい。

藤沢駅から周辺商店街への回遊性を高める